



武蔵野

学校だより NO. 4
平成30年 7月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 岡部 操

社会の形成者としてコミュニケーションスキルをどう育むか

校長 岡部 操

各地から海開きや山開きのたよりが届き、本格的な夏の訪れを感じさせるこの頃です。昭島市では青少年の健全育成活動の一環として、7月を「あいさつ運動推進強調月間」としています。本校でも登校時に児童会やPTA活動の一環として、あいさつ運動を実施しています。気持ちのよい挨拶ができると、一日の学校生活が、気持ちよくスタートできます。小学校においては、社会の形成者としての基盤づくりを目指しています。この挨拶は、コミュニケーションスキルの基本的事項の一つと言えます。

保護者の皆様におかれては、家族間でコミュニケーションが十分とれているでしょうか。また、地域でのコミュニケーションのとり方はどうなっているでしょうか。「仕事に追われて、子供とのコミュニケーションは妻に任せきりだ」「我が家は共働きで、子供と接する時間がなかなかとれない」などの実態があると思います。また、少子化が進んで家の中での話し相手が限られることもあるでしょう。

保護者の中にもコミュニケーションが苦手で、子供や近所の方とうまく付き合えない人もいないのでしょうか。しかし、次の時代を担う子供たちを、コミュニケーション力が不十分なまま、社会に出すことがないようにしなくてはなりません。そのためには、まず我々大人がその重要性を認識し、そのセンスとスキルを研くことが必要ではないでしょうか。

アメリカの心理学者であるウィリアム・ジェームスは、次のように述べています。「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。」大人が変われば、子供も変わります。大人の一言で、子供は大きく変わることを信じて接していきたいものです。

子供はなかなか思うとおりに反応しません。そこで、自信を与え成長を促すためには、ほめ言葉が大切です。口先からではなく、実感を込めて心からほめる。うまくいった瞬間に、タイミングよくほめる。結果にこだわらず、頑張っている姿、つまりその過程をほめる。そのためには、日頃から子供の長所を見つけられるようにしておく必要があります。これは教師も同様です。

まずは子供の目を見て、明るい表情で、相づちを打ちながら子供の話を聞くことから始めてみましょう。「言いたいことがあったら何でも話さない」「困ったことがあったら何でも話さない」と言われても実際は話しぶらいものです。こちらが働きかけのない待ちの姿勢では、子供からの発信は期待できません。聞くことは決して受け身ではなく、こちらから近づき声をかけて、ものを言いやすい雰囲気を作り出す必要があります。

コミュニケーションを意識することで会話が弾み、家族や地域全体が仲良くなれます。そのことが社会の形成者としての資質を養うことにつながると信じています。